

松谷 満 ゼミ

教員の研究関心領域

現在の研究関心領域は、社会意識論と政治社会学です。主に質問紙調査によってデータを収集し、それを分析するという計量的な研究を行ってきました。私たちが日ごろ当たり前と思っていることや大事だと思っていること(常識や価値観)が、別の時代や異なる国・地域・集団ではまったく違っていたりします。この社会的に規定された意識のありようを研究するのが社会意識論です。現代社会の主役は一人ひとりの市民です。でも主役でない人が偉ぶっていたり、主役の人が誰か決めてくれと放り投げたり、おまえは間違っているなどとケンカしたりしています。それを研究するのが政治社会学です。

4年までのテーマ・方針・内容

1. 一言でいうと「調査」ゼミです。演習Ⅰおよび演習Ⅱでは学外調査をします。自分たちで計画をたてて調査をし、結果をまとめて報告書にします。調査は量的なものとは限りません。
2. 調査は「残業」が発生しやすいというのが常識です。部活・バイト等が忙しい人は時間の確保がたいへんかもしれません。
3. 授業中に文献講読をすることは他のゼミに比べると少ないかもしれません。ただし、本を読まなくてもいいということではありません。きっと図書館に行く時間が増えると思います。
4. ゼミ生に応じて臨機応変に対応しますが、要求する水準を下げることはありません。

卒業論文のタイトル例

「恋愛意識の変容——雑誌記事データの分析から」
「河村市長はなぜ支持されるのか——名古屋市民調査の分析」
「『名古屋＝田舎』説の検証——東京・名古屋私大生比較調査」
「あなたは中国・韓国が嫌いですか？——排外主義の背景要因」
「タバコをやめたのは誰か——全国調査の時系列分析」

成績評価 基準・方法

毎回出席は評価を受けるための最低条件。ゼミへの貢献度・レポートによって総合的に評価します。

自己紹介 こんな学生を歓迎

福島→名古屋→大阪→徳島→横浜と渡り歩いて今年からこの大学にいます。「厳しさ」のなかにも「楽しさ」を失わずにみなさんをレベルアップさせることができるのか、どういった「教育」方法が効果的・効率的であるのか、ということを最近考えています。ですから、そもそもゼミを通してレベルアップする意欲のない人はお断りです。「調査」ゼミという性格上、社会調査士資格をめざしている人を歓迎します。

演習Ⅰ テーマ:

内容 スケジュール

演習Ⅰでは、「社会意識」や「政治」という領域にとらわれずに、興味深いテーマ・問いを自分たちで設定し、試行錯誤のなか教員にダメ出しをもらいつつ、つらい思いをしながら調査をやり遂げる、というのが目標。「はじめてのおつかい」ならぬ「はじめての社会調査」。授業時間は、調査の進めかたについて議論し、アイデアを出しあい、得られたデータをどうまとめるかを話し合う、というように、つねに話し合いの場として位置づけられる。

その他

ゼミの性格上、社会調査士関連科目を受講しておくことをおすすめする。

演習Ⅱ テーマ:

内容 スケジュール

演習Ⅱでは、「社会意識」や「政治」という領域のなかで、興味深いテーマ・問いを自分たちと教員との話し合いのなかで設定し、卒業論文としてもおかしくないような水準の報告書をつくる、というのが目標。演習Ⅰでの経験を生かしつつ、3年生から就活をしないといけないという社会の不条理に抗いつつ、己のもつ潜在力を最大限に発揮し、お互いに助け合いながら調査をやり遂げてほしい。

その他

ゼミの性格上、社会調査士関連科目を受講しておくことをおすすめする。「社会調査実習」も履修すること。

演習Ⅲ テーマ:

内容 スケジュール

自分自身のテーマを追求し、「卒業論文」を執筆する。

その他

ゼミ受講希望者は必ず説明会に出席すること。エントリーシートを配布します。